

寒燈句会

柿落せし竿にまだゐる蜻蛉かな

(10月6日)

瓦工場

裏山の月に煙れる竈かな

(10月13日)

秋風や児がもてあそぶ縄の片

(10月20日)

吟社十一月例会 席題「木犀、障子張る」

木犀に竹そよぎ暮るる机かな

寒燈句会

驟雨来て濡れたる縁や菊の雛

(11月3日)

隣国が見ゆる峠や草の花

(11月10日)

草花に月のさしたる戸口かな

寒燈吟(水巴選)

豚小屋の霜にかゞやく日の出かな

(12月1日)

就中無花果の下や今朝の霜

()

碧潭の飛沫に咲ける茶の木かな

(12月8日)

吟社師走例会 席題「枯草」

川尻の草枯に来るは千鳥かな

畑地糶るや草枯に置く椅子二つ

死かちし鳥を埋むる鎌や冬日影

石に落ちて飛びし木の実や冬日影

税関の火鉢小さいく守る夜かな

句帖

(曲水2-7)

初冬や谷の深きに観世音

轍深く石に曲れる枯野かな

鷹 (蛇笏選)

くそ鷹のふためき逃げし古枝かな

氷 (桃孫選)

氷る底に赤きものある金魚かな

大正7年

「五人の春」より

大屋根の雪解くる音や福寿草

(曲水2-8)

大藁屋根の雪をくぐりて年賀かな

静岡句会(水巴選)

嶺嵐す吹雪となりぬ製板所

(曲水2-9)

句帖

河豚の座に白う配りし小皿かな

道の辺の除夜を搗き居る水車かな

静岡・長頸子

樹人苔雨の両君と郷里の賤機山に登る

虎落鳴って冬山人を止めざる

帰省

冬木根に靴脱いで墓を掃きにけり

死ぬる子の足のぬくみの湯婆かな

花足袋の鴛鴦に似て編まれけり

(曲水2-10)